小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　総括表（令和３年）

法人名	特定非営利活動法人 オーバル	代表者	室井啓子
事業所名	おーばる・ほーむ	管理者	室井啓子

法人・事業所の特徴	2021 年もまた、コロナ禍での何が出来るか模索する一年でした。社会とのつながりを求め、親しみのある毛糸のモチーフを作り、街のフェンスや樹木を飾る。又外食の中止を補うため、外食店の支援に「お弁当」を注文する等を意識して取り組んだ。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援ｾﾝﾀｰ	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1	2	3	0	1	1	2	2		12

項　　目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の確認	**記録を簡素化と共有を図る。 当分現在の記録で改善を図る**	期間が明確でない。 共有している根拠が確認取れない	利用者の方、スタッフ共に笑顔がある スタッフの意見が多くなった	**自己評価で「できていない」部分を再認識し、一つでも「できている」に変える**
B．事業所のしつらえ・環境	**予算の計画が必要なことか、直にできる整備かを見極めながら環境整備を行っていく**	小規模多機能型居宅介護の看板がついて、迷わなくなった	トイレや手洗い場所を増設し環境整備を図っている	**一人一人の状態に合わせた環境を工夫し、自立を図る**
C．事業所と地域のかかわり	**自治会との関係性を深め、施設があることで安心できる地域環境を目指す**	コロナ禍になっても、以前からのつながりがあるので、連携は維持できている	「お弁当の日」を設け、地域を応援した。地域での取組みが自治会ニュースで紹介されている	**前回の計画を継続する 作った小タキの冊子を配布する**
D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	**ご利用者が安心して生活が続けられるように、関係者と連携を図る**	積極的に取り組みたくとも出来なかった	コロナ禍で自粛を余儀なく受け入れるしかできなかった	**各自宅周辺での地域とのかかわりを持てるように取り組む**
E．運営推進会議を活かした取組み	**委員のご意見を住民の意見と聞き、丁寧な対応を心掛けて課題を減らす**	実際に対応している	心配な状況にある方を見守ってくれている。事業運営が厳しい場合行政の支援があれば市民も安心する	**地域の困りごとに積極的にかかわり、改善につなげる**
F．事業所の防災・災害対策	**ホーム内では毎月 16 日を訓練の日として緊急事態に備える**	対応の参考になる災害時用の個人情報を作成した	停電時の対策、 災害時の備蓄はあるのか	**避難先になる開成校と災害時における打ち合わせを行う**